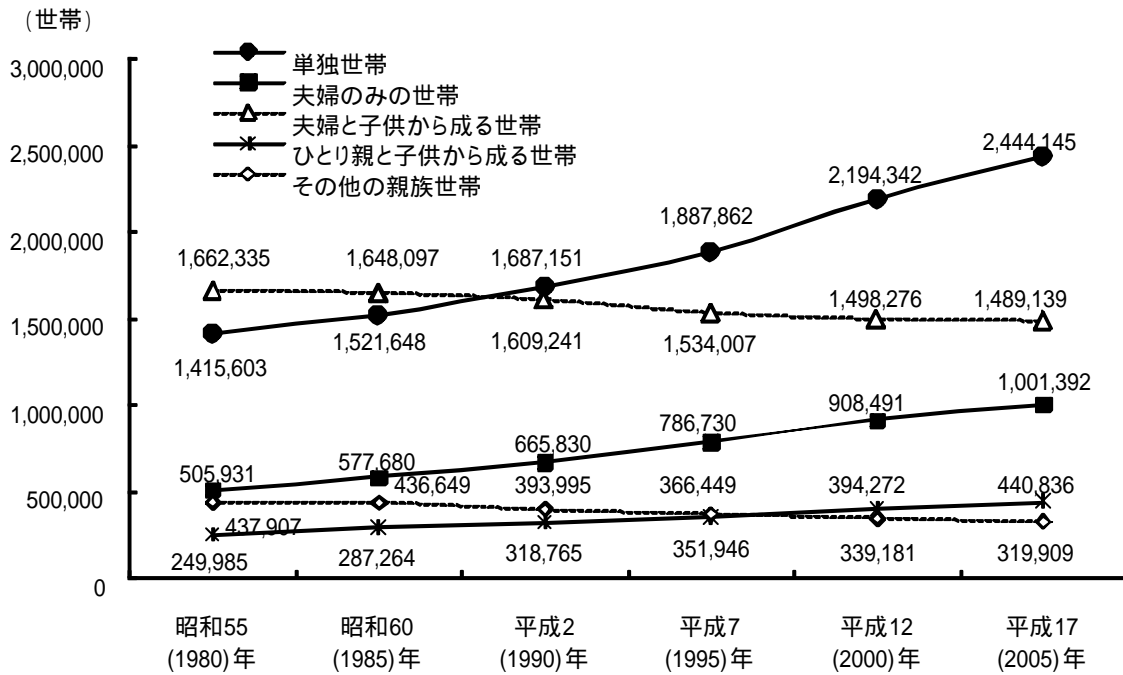


家族の状況

1. 世帯構造別世帯数

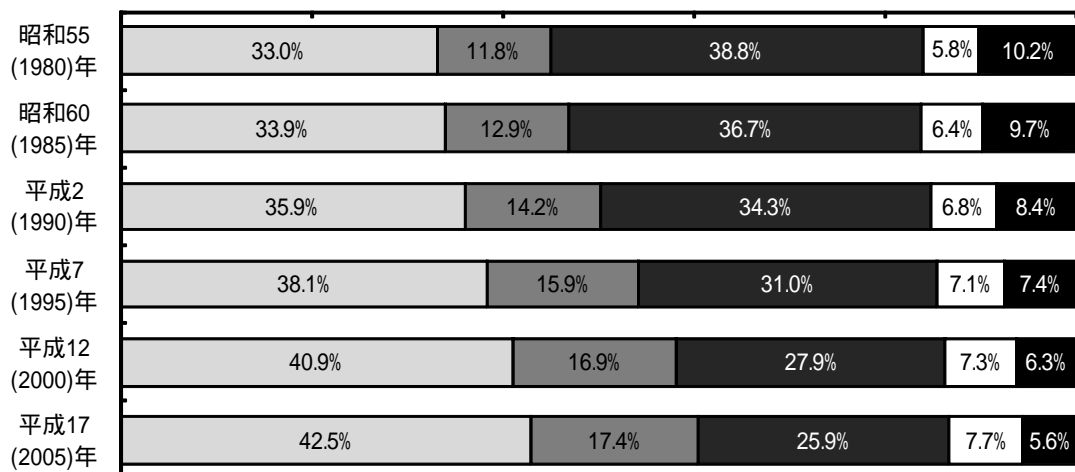
昭和 55 (1980) 年に 1,415,603 世帯であった都の単独世帯は、平成 17 (2005) 年には 2,444,145 世帯に増加し、世帯総数に占める割合は 33.0%から 42.5%まで増加している。夫婦のみの世帯は、505,931 世帯から 1,001,392 世帯に増加し、世帯総数に占める割合は 11.8%から 17.4%に増加している。夫婦と子供から成る世帯は 1,662,335 世帯から 1,489,139 世帯へと緩やかに減少し、世帯総数に占める割合は 38.8%から 25.9%に減少している。

図表 - 1 - 1 世帯構造別世帯数の推移 (都)



図表 - 1 - 2 世帯構造割合の推移 (都)

□単独世帯 ■夫婦のみの世帯 ■夫婦と子供から成る世帯 □ひとり親と子供から成る世帯 ■その他の親族世帯

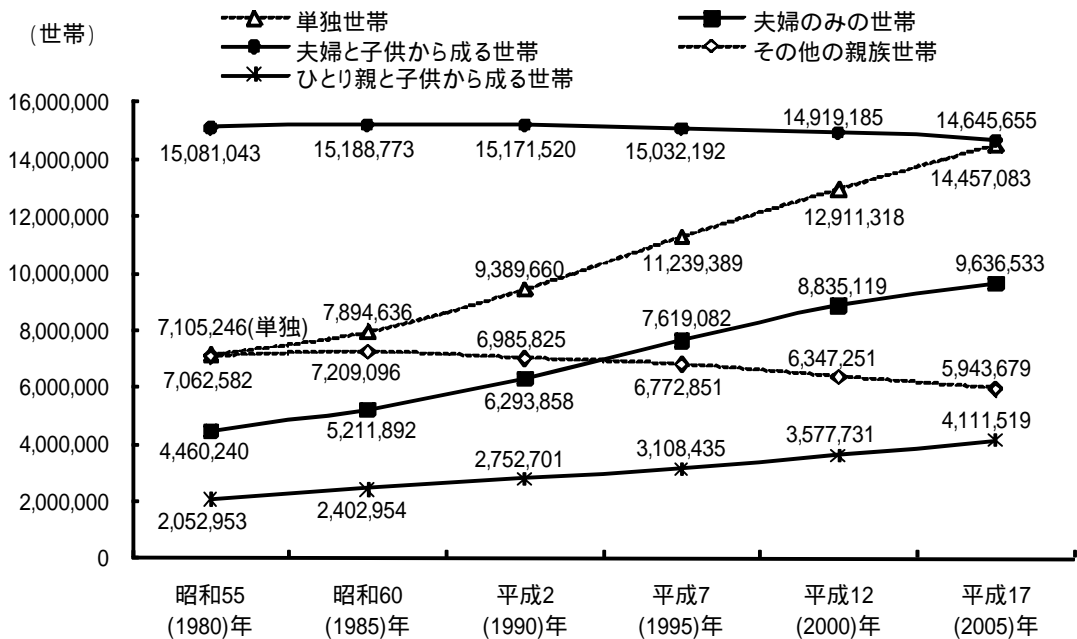


資料：総務省「国勢調査」

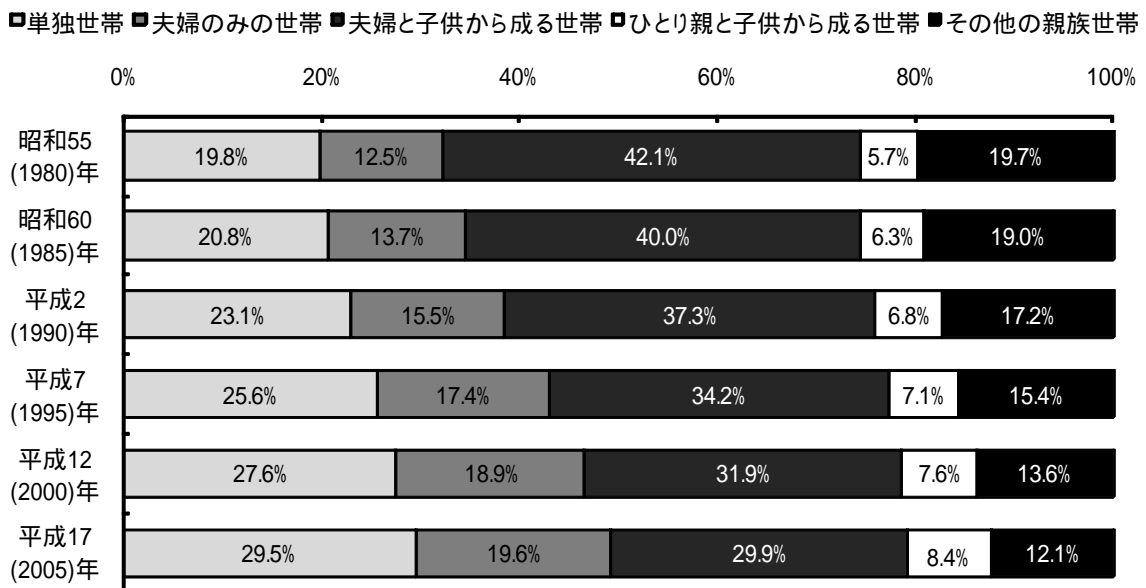
女子差別撤廃条約採択から30年の東京の男女の現状

昭和55(1980)年に7,105,246世帯であった全国の単独世帯は、平成17(2005)年には14,457,083世帯に増加し、世帯総数に占める割合は19.8%から29.5%まで増加している。夫婦のみの世帯は、4,460,240世帯から9,636,533世帯に増加し、世帯総数に占める割合は12.5%から19.6%に増加している。夫婦と子供から成る世帯は15,081,043世帯から14,645,655世帯へと緩やかに減少し、世帯総数に占める割合は42.1%から29.9%に減少している。

図表 - 1 - 3 世帯構造別世帯数の推移(全国)



図表 - 1 - 4 世帯構造割合の推移(全国)

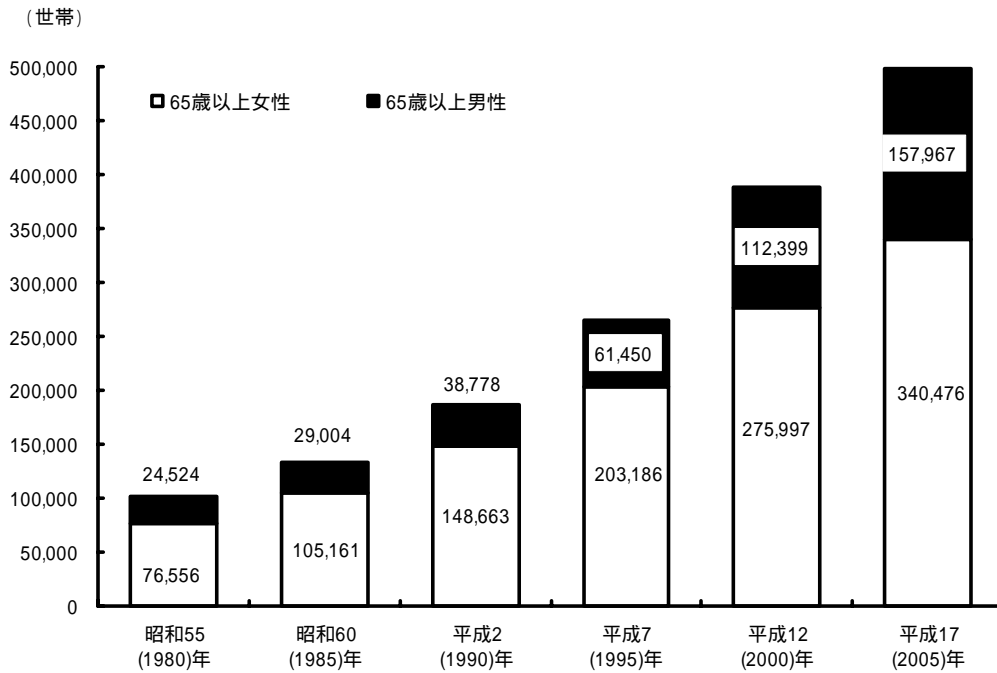


資料：総務省「国勢調査」

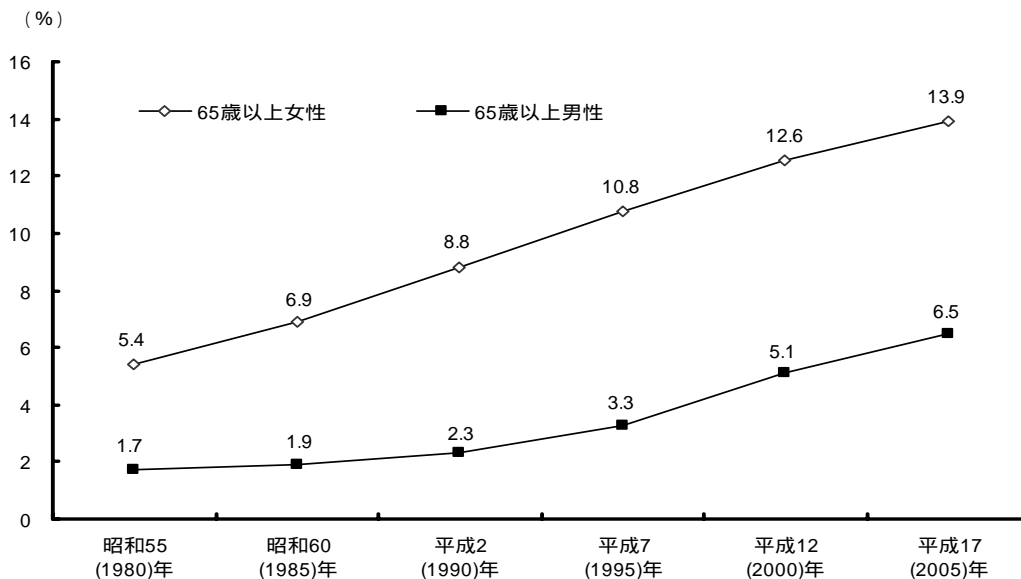
2. 高齢化率及び世帯状況

都の 65 歳以上の単独世帯は、男女とも一貫して増加し、平成 17 (2005) 年には女性 340,476 世帯、男性 157,967 世帯となっている。単独世帯全体に占める比率も上昇し、女性で 13.9%、男性で 6.5%となっている。

図表 - 2 - 1 単独世帯に占める 65 歳以上の世帯数の推移 (都)



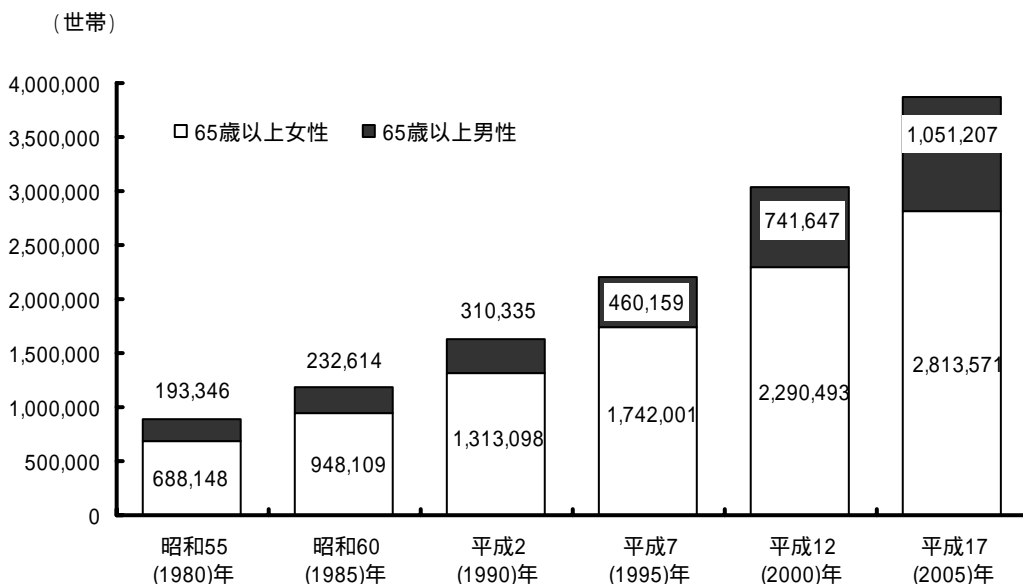
図表 - 2 - 2 単独世帯に占める 65 歳以上の者の比率の推移 (都)



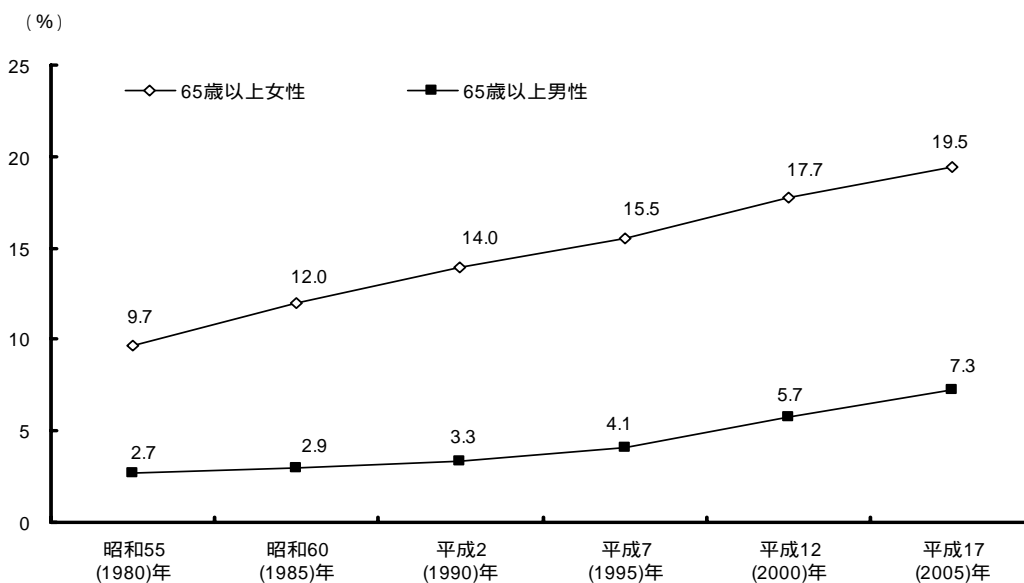
資料：総務省「国勢調査」

全国の65歳以上の単独世帯は、男女とも一貫して増加し、平成17(2005)年には女性2,813,571世帯、男性1,051,207世帯となっている。単独世帯全体に占める比率も上昇し、女性で19.5%、男性で7.3%となっている。

図表 - 2 - 3 単独世帯に占める65歳以上の世帯数の推移(全国)



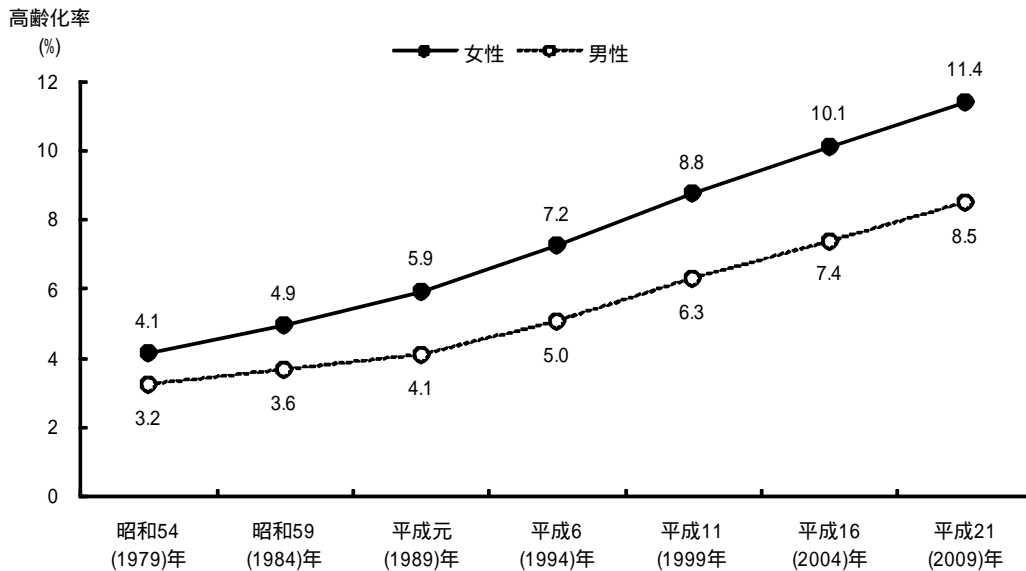
図表 - 2 - 4 単独世帯に占める65歳以上の者の比率の推移(全国)



資料：総務省「国勢調査」

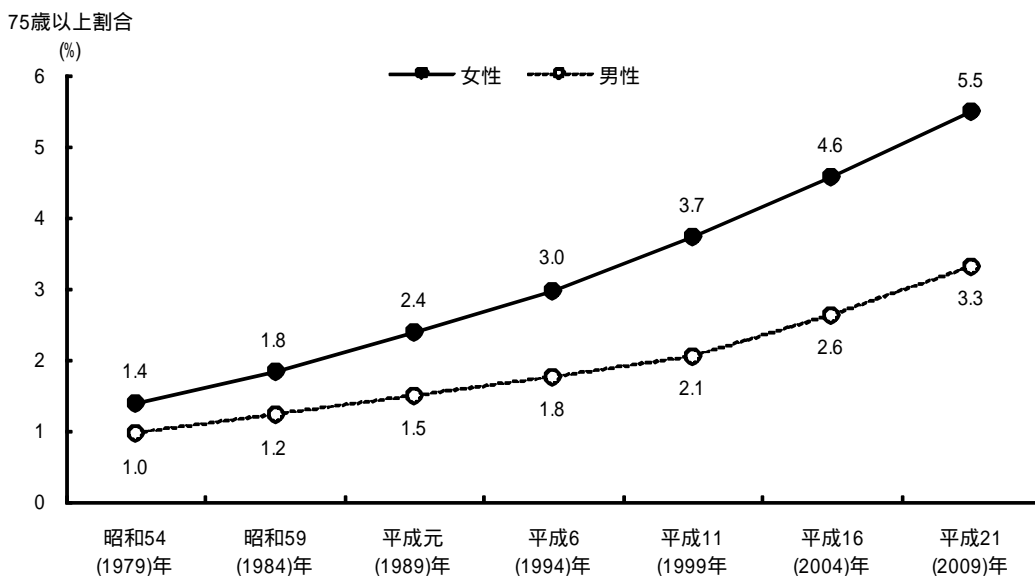
都の高齢化率は男女ともに一貫して上昇しており、平成 16 (2004) 年には都の人口に占める 65 歳以上の女性の割合は 10% を超え、平成 21 (2009 年) には 11.4% になっている。
75 歳以上の女性の割合は、平成 21 (2009 年) には 5.5% になっている。都の高齢化率は男女ともに上昇傾向にあり、特に男性よりも女性の高齢化率が高い。

図表 - 2 - 5 男女別 65 歳以上人口の割合の推移(都)



注：それぞれ人口総数に占める 65 歳以上の人口の割合

図表 - 2 - 6 男女別 75 歳以上人口の割合の推移(都)



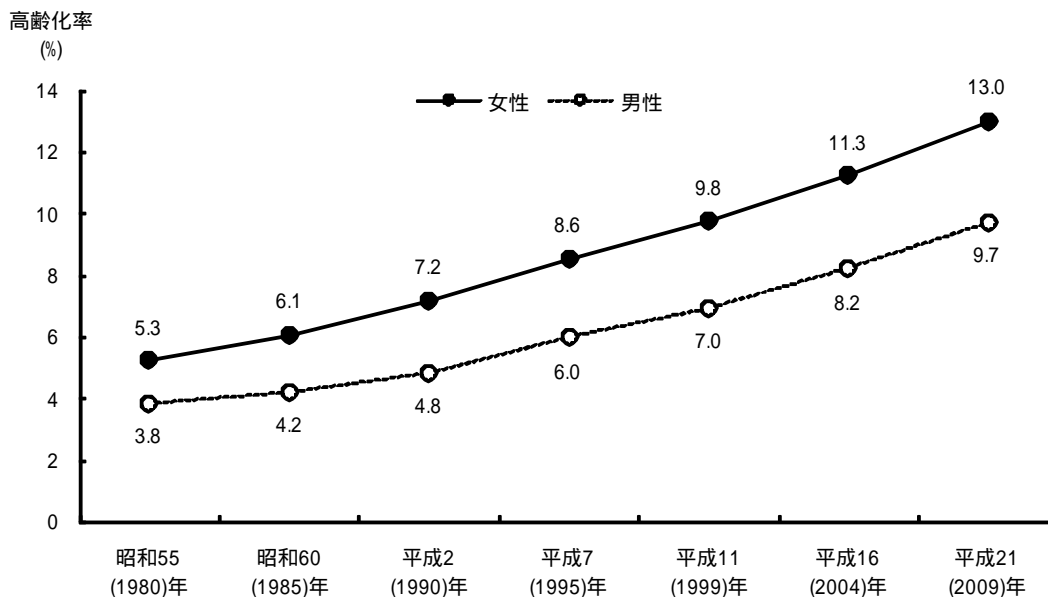
注：それぞれ人口総数に占める 75 歳以上の人口の割合

注：各年 1 月 1 日現在

資料：東京都総務局「住民基本台帳による世帯と人口」

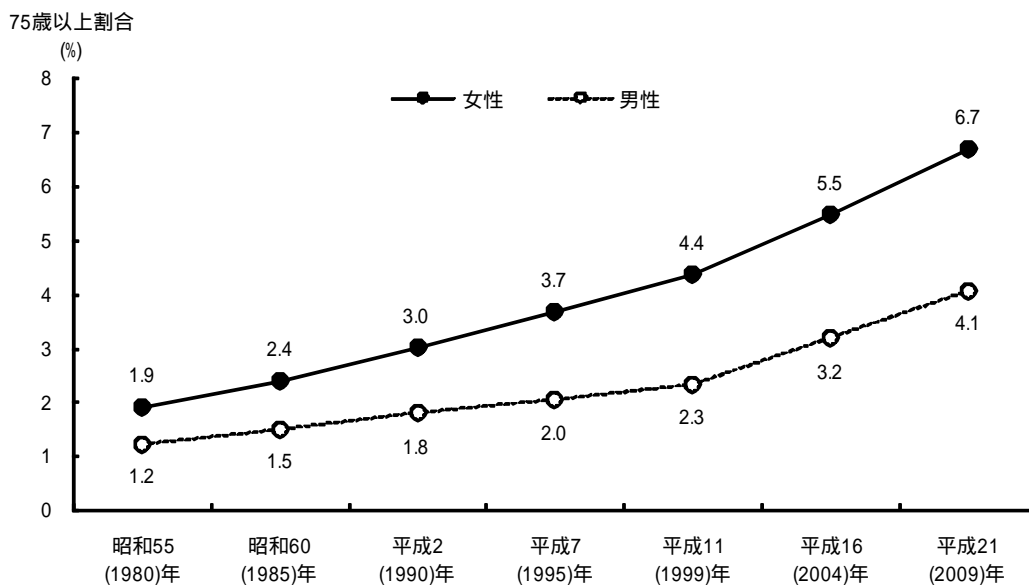
全国の高齢化率は男女ともに一貫して上昇しており、人口に占める 65 歳以上の割合は、平成 21(2009)年には女性 13.0%、男性 9.7%になっている。
75 歳以上の割合は、平成 21(2009)年には女性 6.7%、男性 4.1%になっている。

図表 - 2 - 7 男女別 65 歳以上人口の割合の推移(全国)



注：それぞれ人口総数に占める 65 歳以上の人口の割合

図表 - 2 - 8 男女別 75 歳以上人口の割合の推移(全国)



注：それぞれ人口総数に占める 75 歳以上の人口の割合

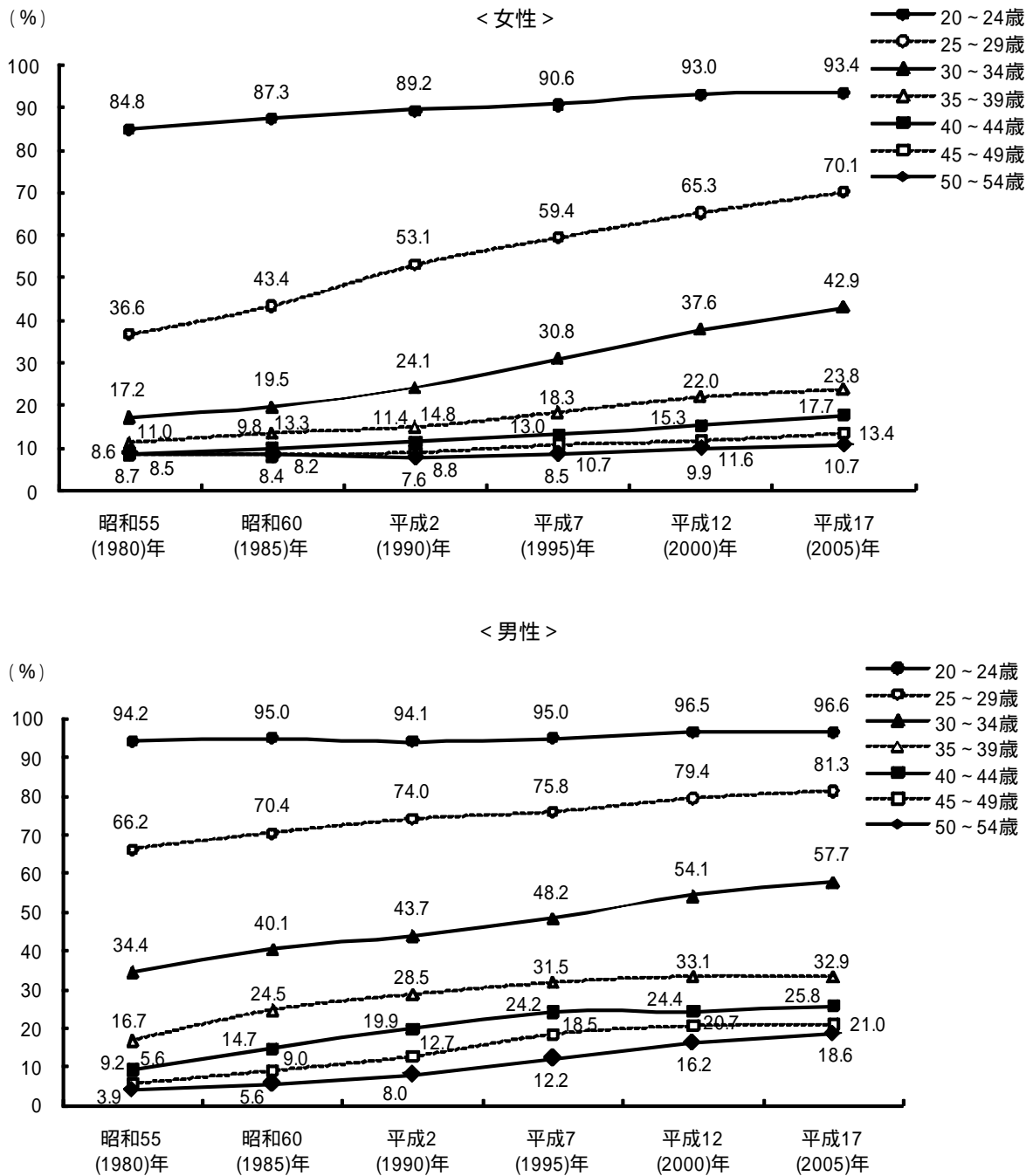
資料：総務省「人口推計」(各年 10 月 1 日現在)、総務省統計局「国勢調査」(平成 7 年以前)

3. 年齢階級別未婚率

・都の 25 歳～29 歳の女性の未婚率は、昭和 55(1980)年の 36.6%から急速に増加し、平成 17(2005)年には 70.1%、30 歳～34 歳の女性の未婚率は昭和 55(1980)年の 17.2%が、平成 17(2005)年には 42.9%に増加している。

・都の 30 歳～34 歳の男性の未婚率は、昭和 55(1980)年の 34.4%から急速に増加し、平成 17(2005)年には 57.7%、35 歳～39 歳の男性の未婚率は昭和 55(1980)年の 16.7%が、平成 17(2005)年には 32.9%に増加している。

図表 - 3 - 1 年齢階級別未婚率の推移(都)



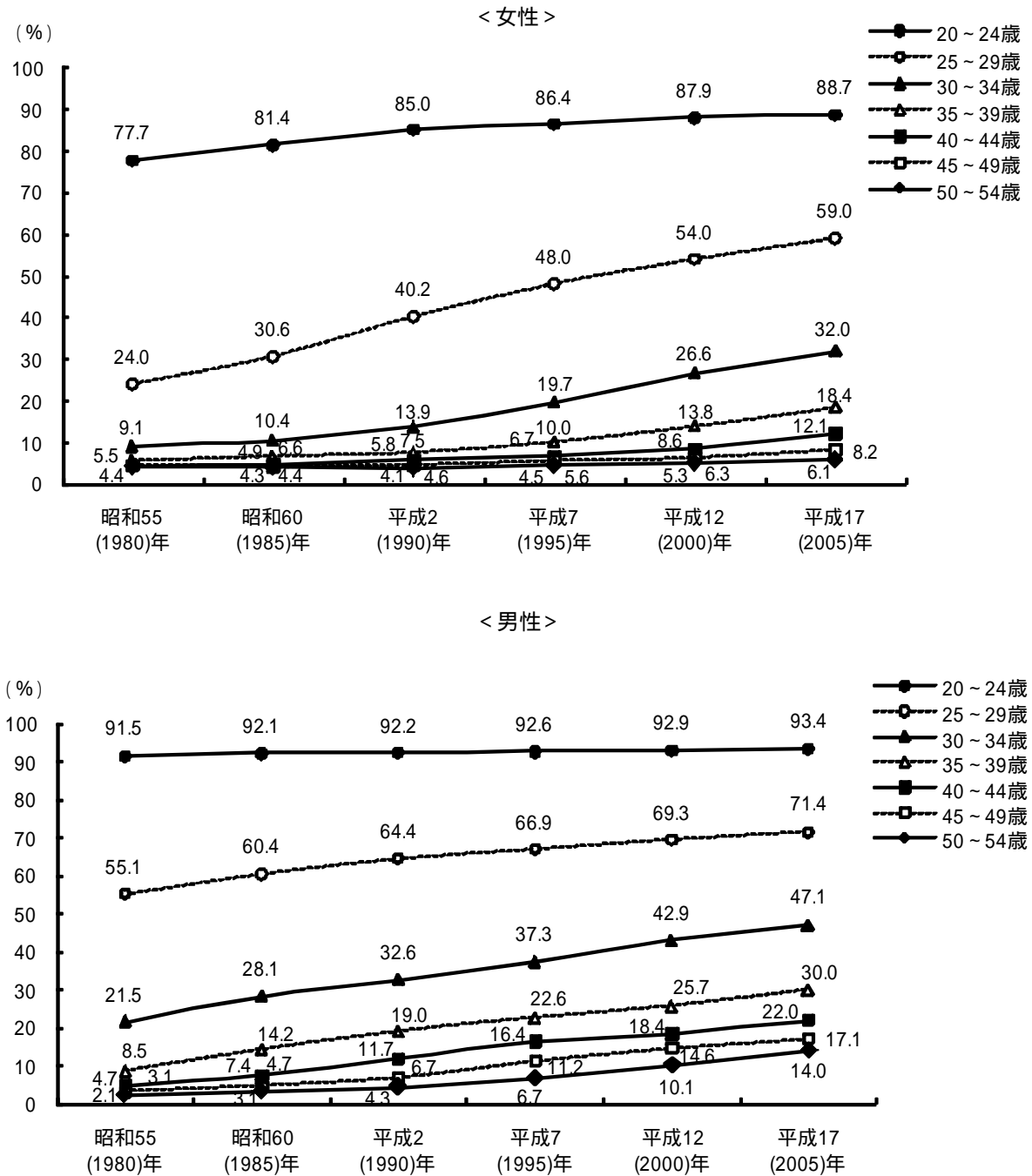
資料：総務省「国勢調査」

女子差別撤廃条約採択から30年の東京の男女の現状

・全国の25歳～29歳の女性の未婚率は、昭和55(1980)年の24.0%から急速に増加し、平成17(2005)年には59.0%、30歳～34歳の女性の未婚率は昭和55(1980)年の9.1%が、平成17(2005)年には32.0%に増加している。

・全国の30歳～34歳の男性の未婚率は、昭和55(1980)年の21.5%から急速に増加し、平成17(2005)年には47.1%、35歳～39歳の男性の未婚率は昭和55(1980)年の8.5%が、平成17(2005)年には30.0%に増加している。

図表 - 3 - 2 年齢階級別未婚率の推移(全国)

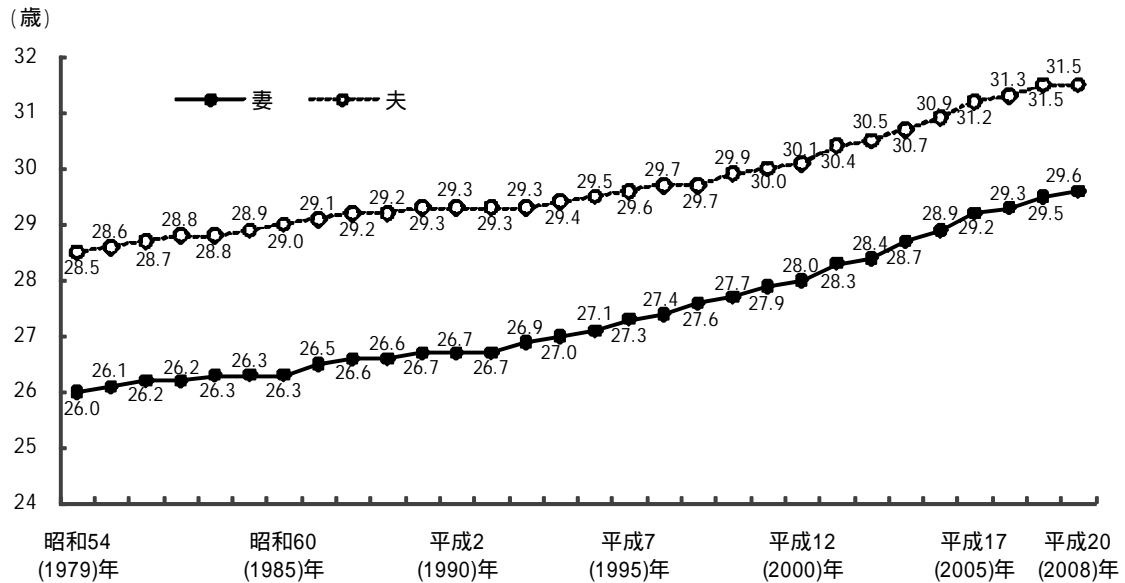


資料：総務省「国勢調査」

4. 平均初婚年齢

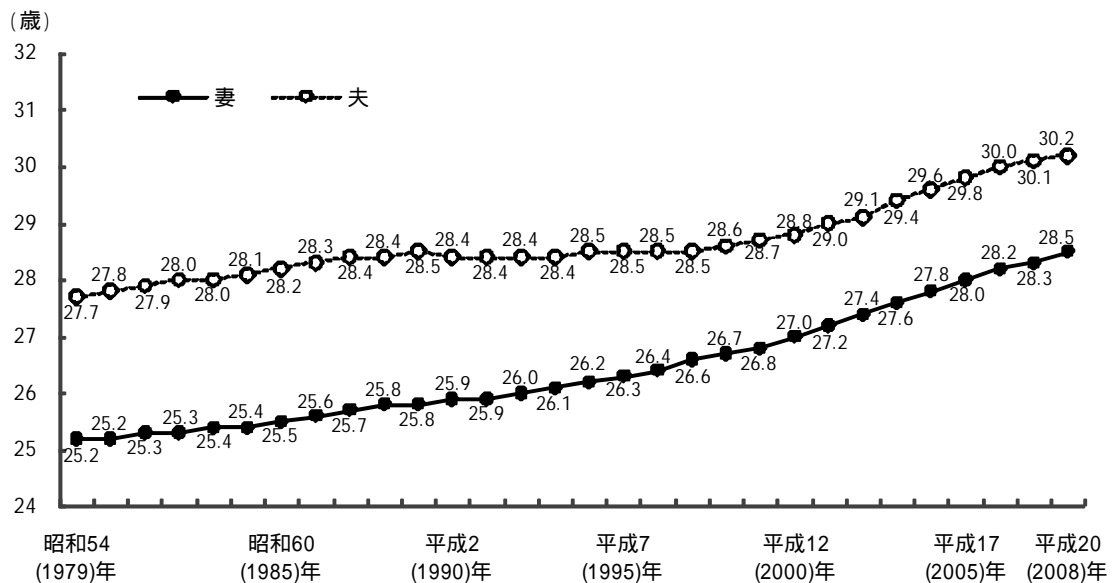
平均初婚年齢は都・全国ともに上昇しており、都は男女とも全国平均を上回っている。
 昭和 54 (1979) 年の都の平均初婚年齢は男性 28.5 歳、女性 26.0 歳であったが、平成 20 (2008) 年には男性 31.5 歳、女性 29.6 歳となっている。
 全国では昭和 54 (1979) 年に男性 27.7 歳、女性 25.2 歳であったが、平成 20 (2008) 年には男性 30.2 歳、女性 28.5 歳となっている。

図表 - 4 - 1 平均初婚年齢の推移(都)



注 1 : 結婚式をあげたときまたは同居をはじめたときのうち早い方の年齢である。各年に同居し届け出たものについての集計である。
 資料 : 東京都福祉保健局「人口動態統計」

図表 - 4 - 2 平均初婚年齢の推移(全国)

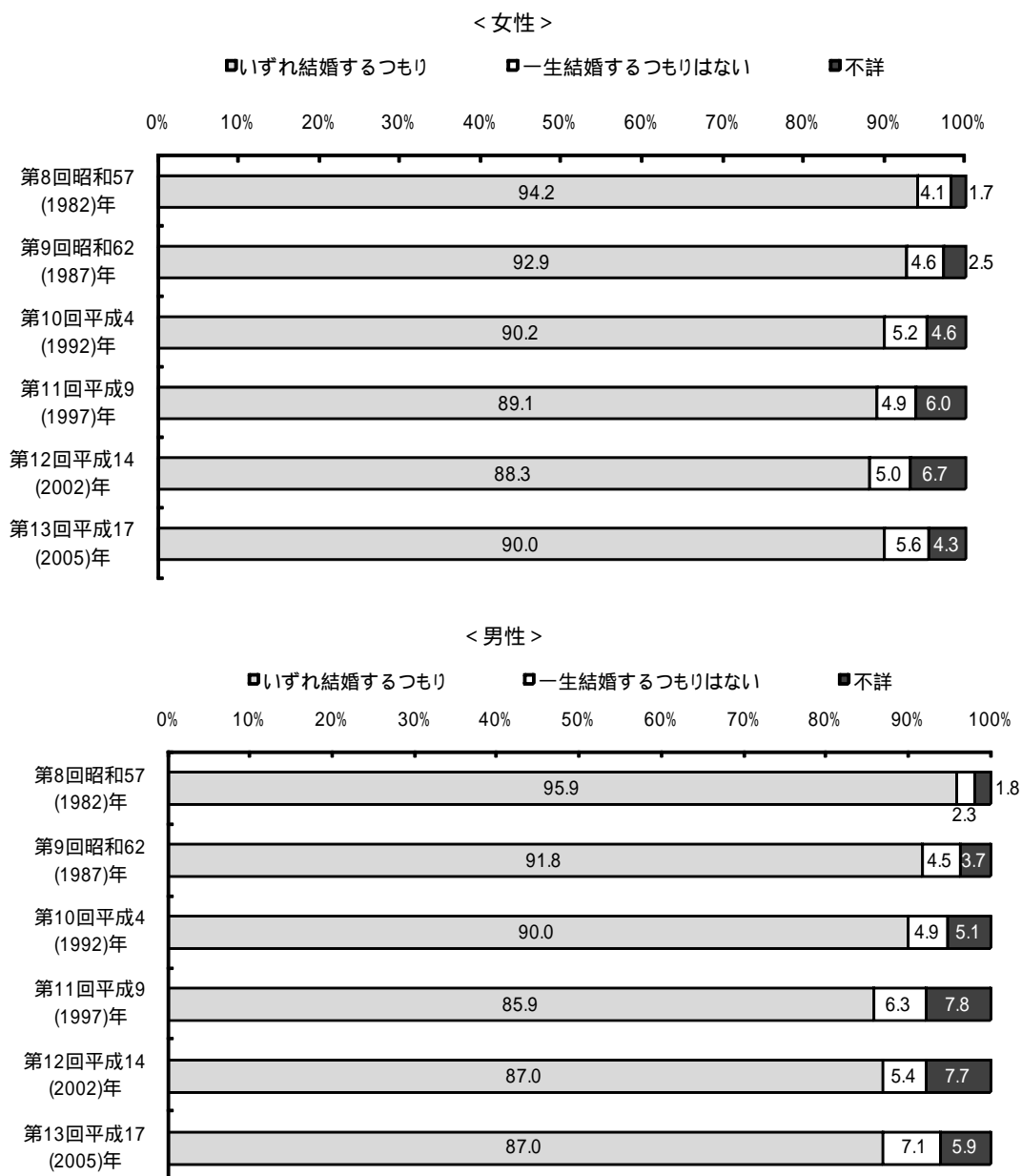


注 1 : 平成 3 年までの夫または妻の平均婚姻年齢は出生年月及び同居年月による年齢の算術平均に 0.46 歳を加え、平成 4 年以降は年月齢によって算出した。
 注 2 : 結婚式をあげたときまたは同居をはじめたときのうち早い方の年齢である。各年に同居し届け出たものについての集計である。
 資料 : 厚生労働省「人口動態統計」

5. 結婚への意欲

いずれは結婚しようとする未婚者の割合は、近年わずかずつ減る傾向にあったが、平成 14 (2002) 年以降下げ止まりが見られ、平成 17 (2005) 年時点で、男性で 87.0%、女性で 90.0%となっている。女性では「いずれ結婚するつもり」が 90%を超えており、ほとんど変化していないが、男性では「一生結婚するつもりがない」がやや増加傾向にある。

図表 - 5 - 1 未婚者の生涯の結婚意思の推移 (全国)



注1：設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」

1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない

注2：対象は 18～34 歳未婚者。

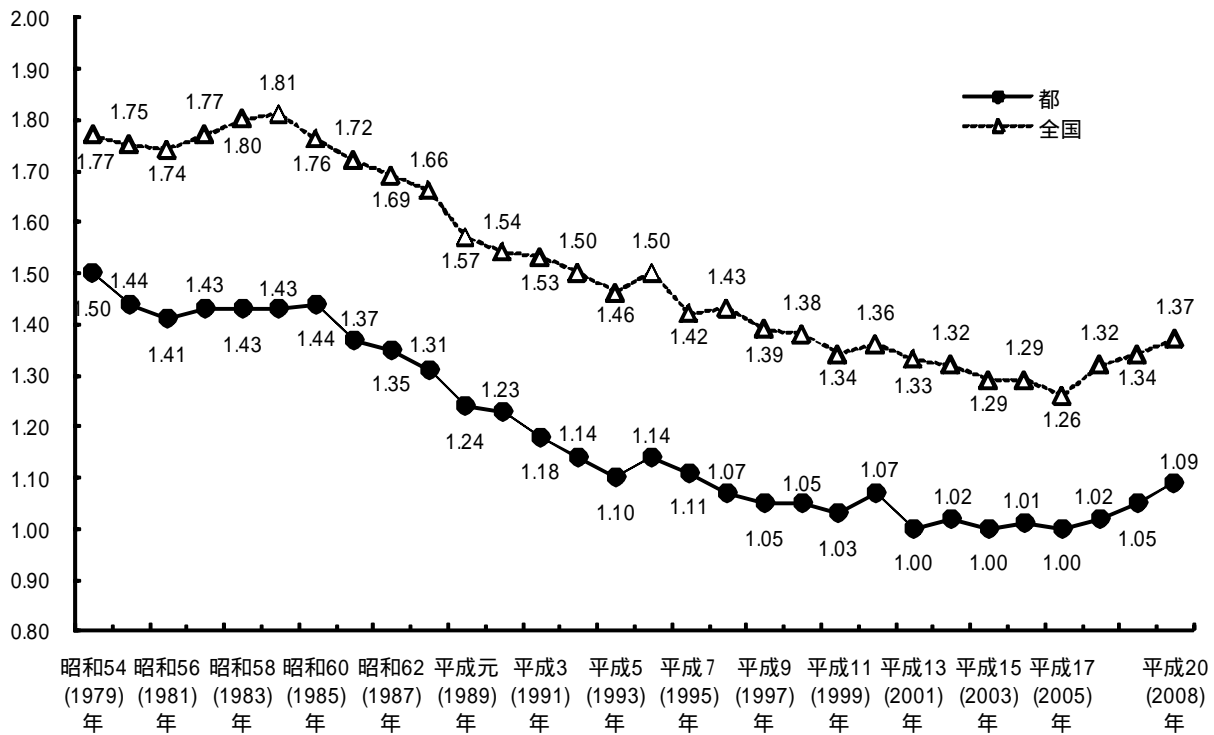
資料：国立社会保障人口問題研究所「第 13 回出生動向基本調査結婚と出産に関する全国調査」

6 . 合計特殊出生率

昭和 54 (1979) 年に 1.50 であった都の合計特殊出生率は、ほぼ一貫して減少を続け、平成 13 (2001) 年には 1.00 まで低下した。その後は横ばいから微増の状況となり、平成 20 (2008) 年の合計特殊出生率は 1.09 である。

一方、国の合計特殊出生率は昭和 54 (1979) 年に 1.77 であったが、ほぼ一貫して減少を続け、平成 17 (2005) 年には 1.26 まで低下した。その後は横ばいから微増の状況となり、平成 20 (2008) 年の合計特殊出生率は 1.37 である。

図表 - 6 - 1 合計特殊出生率の推移(都・全国)



注：合計特殊出生率とは、15 歳から 49 歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子供の数を表す。

資料：東京都福祉保健局「人口動態統計年報」(平成 20 年)
厚生労働省「平成 20 年人口動態調査」